

西国分寺から分倍河原

12月22日 (火) 快晴

- ★ 雲ひとつない快晴である。東の空には上弦の月が白く輝いている。
- ★ 西国分寺駅前のロータリーから真っすぐ南へ伸びる史跡通りを行く。ケヤキ並木の道の両側には高層マンションが並び、歩道には草花が植えてあって気持ちのよい散歩道である。泉町3丁目でJR武蔵野線にかかる跨線橋の下を潜り、更に南へ進むと武蔵台遺跡公園に突き当たった。ここは今から約4000年前の縄文時代中期後半に使われた住居の跡で、発掘時の状態で復元展示されている。大きさは約5mあり、居住部分の中央には炉が設けられ、炉を囲むように平たい面を表にした川原石が敷かれている。



史跡通り



武蔵台遺跡



- ★ 遺跡公園の先は小高い丘になっていて、そこに切り通しの道が続いている。これが「伝鎌倉街道」で、約120mほどの国分寺崖線を切り通した歩道が、当時の雰囲気を感じさせてくれる。特にこの時期はケヤキの落葉が舞い落ちてきてノスタルジックなセンチメンタルな気持ちにさせられる。



伝鎌倉街道



国分尼寺の金堂跡



幢竿

切り通しを抜けると国分尼寺跡に出る。歴史公園として整備され、発掘調査の結果に基づい

て尼寺伽藍の中枢部を構成する中門、金堂、尼坊などの主要な建物の位置を復元的に展示してある。中門と金堂の間に建つ4本の柱は、儀式のときに周囲を荘厳するための幟や旗を掲げる「幢竿」というものである。

★ 国分尼寺を後にして更に南下すると府中市に入り、東八道路を横断すると間もなく東芝府中工場の北門に突き当たる。製品を運び出す大きなトラックが何台も出てくる。

旧鎌倉街道は東芝府中工場の中を通過していたのであるが、我々は工場に沿って迂回しなければならないので、東へ進み JR 武蔵野線を越えると府中街道に出た。この交差点の東南の角に府中刑務所がある。ここは1968年12月10日に起きた「三億円強奪事件」の発生現場として有名である。日本信託銀行国分寺支店から東芝府中工場へ従業員のボーナス約3億円の現金が入ったジュラルミンのトランク3個を輸送中の現金輸送車が、府中刑務所裏の学園通りに差し掛かったとき、白バイ隊員に変装した男に強奪された。この事件は未解決のまま1988年12月10日に時効が成立した。

府中街道に沿って高さ3mほどの刑務所の白い塀が続いている。中ほどの入口と思しきところに守衛が立っていたが、小さな窓が見えるだけである。



府中刑務所の白い塀



守衛がひとり

★ 刑務所の長い塀が終わると間もなく北府中駅に着いた。跨線橋を渡り、駅の改札前を通過して東芝府中工場沿いの静かな道を更に南下する。東芝府中のラグビーグラウンドを見ながら右折して富士見通りを西に進むとやがて東芝府中工場の南門である。



東芝府中工場の北門



東芝府中工場の南門

★ 南門前の小さな公園で小休止を取った。ここからは再び旧鎌倉街道を辿るが普通の住宅街である。甲州街道を越えると道はやや細くなり、街道に沿って浅間神社や八雲神社や光明院などの古い寺社が昔の面影を伝えている。南武線の踏切を渡り、中央高速の下を潜ると間もなく左手に「分倍河原古戦場跡」の碑が立っている。

元弘3年（1333）5月8日、鎌倉幕府打倒を目指して挙兵した新田義貞が、鎌倉を目指して進軍し小手指が原、久米川の戦いで幕府軍を破った。敗報に驚いた幕府は北条泰家を大将とする10万の軍勢を派遣し、5月15日、16日の2日間に渡って分倍河原で激突したが、ここでも敗れて鎌倉に敗走した。その後14代執権・北条高時が自害して鎌倉幕府は崩壊した。



浅間神社



八雲神社



分倍河原古戦場跡の碑

★ 古戦場跡から夕陽を正面に見ながら15分ほど歩いて京王線・中河原駅に到着した。



分倍河原古戦場跡にて

今回は3人の俳人から俳句を頂きました。

枯葉舞ふ 鎌倉古道の 切通し

国分尼寺 礎石のみなり 冬日射す 志賀 勉

武蔵野の 冬日さしたる 切通し

天平の 寺跡訪ねし 年暮るる 辻 邦彩

陽傾き 古戦場跡に 銀杏散る

散策の 友達なりて 冬木立 水野博司

・参加者 小島恕雄夫妻、志賀 勉、辻 直邦、水野聰夫妻、水野博司、中村仁美 以上8名

写真と文 小島恕雄